

令和6年度 村椿小学校アクションプラン — 1 —

重点項目	温かい人間関係づくり	
重点課題	挨拶の推進【あったか つばきッズ】	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動では、ほとんどの児童が挨拶を返す。しかし、それ以外の場面になると、挨拶をしなくなる児童が多く見られる。 ・「あったか言葉・あったかアクション」という言葉は浸透している。学校生活の中で、さりげない「あったか言葉・あったかアクション」が見られる一方で、深く考えないで発する「ちくちく言葉」も聞かれることから、児童が意識して実践しているとは言えない。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・強調週間を設け、時と場に応じて気持ちのよい挨拶『あいてを見て いつでも さきに（自分から）たえる（場に応じた声の大きさで）』を1日5回以上できる児童の割合が全体の80%以上になることを目指す。 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も計画委員会を中心としてあいさつ運動を継続する。また、気持ちのよい挨拶をしている児童を「さわやかあいさつさん」として、昼の放送で紹介することで、全校児童の挨拶に対する取組意欲を高めていきたい。時と場に応じた挨拶を意識できるように『あいてを見て いつでも さきに（自分から）たえる（場に応じた声の大きさで）』を相手に伝わるさわやかな挨拶のポイントとして指導する。また、PTA や地域との連携は有効であると考えてるので、具体的な取組を検討する。 ・相手を思いやる言葉や行動のよさを意識できるよう、引き続き「あったか言葉の木」に「あったか言葉」や「あったかアクション」を書いた花や葉を貼ったり、それらを紹介したりする。家庭における「あったか言葉」を広める「あったか家族大作戦」にも取り組む。また、人権意識チェック表を活用したセルフチェックを実施することで、児童、教職員共に、全校での人権意識の維持と高揚を図る。 ・学校だよりや学年だより等で、学校の取組を知らせたり、家庭や地域での挨拶の習慣化を呼びかけたりする。 	
外部評価者	学校運営協議会委員	
公開の方法	学校だより、ホームページによる公開	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・計画委員会を中心として、月・水・金曜日の朝に校内を巡回しながらあいさつ運動を行った。気持ちのよい挨拶をしている児童を「さわやかあいさつさん」として昼の放送で全校に知らせた。また、村椿更生保護女性部と一緒に行ったあいさつ運動や地区別に行った「さわやかあいさつ運動」では、いつもより張り切って元気に挨拶する児童の様子が見られた。 ・心温まる言葉や行動を紹介したカードを児童玄関前の「あったか言葉の木」に掲示し、昼の放送で紹介する活動を実施した。また、昨年度に引き続き、毎月25日を「にこにこの日」として、計画委員会作成ののぼり旗を児童玄関に掲げ、意識の浸透を図った。また、2月には「あったか家族大作戦」として、家庭での挨拶や言葉遣いについて振り返る活動を実施した。 ・「名水の里くろべ こどもの権利宣言」を全校で確認した。また、12月には計画委員会の企画運営で「人権集会」を行い、相手の気持ちを考えることの大切さについて全校で考えた。 ・毎月の「生活アンケート」と毎学期の「ふれあい週間（個人面接）」、年2回の「i-check」を実施したことで、児童の思いや悩みを早期に把握し、学級指導や個別対応をすることができた。また、生徒指導日誌を用いた毎日の情報共有や毎週木曜日に生徒指導情報交換会を行うことで、全職員体制で生徒指導を行うことができた。 	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・強調週間中の「時と場に応じて気持ちのよい挨拶ができた」達成率の全校平均は、1回目 86%、2回目 88%で、目標の80%を6～8%上回った。 ・年間を通して行った来校者や校外学習先の方々へのアンケート結果では、「自分から進んで気持ちのよい挨拶をしていた」の項目で13人中11人が「よくしていた」と評価し、よい結果であった。 	
評 価	A	
外部評価者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶はコミュニケーションの入り口であり、挨拶をアクションプランとして取り上げることは意義がある。 ・学校と家庭、地域では、挨拶の実態に多少の差が見られる。この点を加味した達成目標や方策の吟味が望まれる。また、児童の意識をより高めることも必要である。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶について児童の自己評価は高いが、自発的な挨拶の面ではまだまだ課題が見られる。また、個人差が大きい。計画委員会が中心となって方策を練り、児童が自分事として問題を捉えられるようにしていく必要がある。 ・学校では多くの児童が挨拶をしているが、保護者アンケートによると家庭や地域ではそうとも言えないという意見がある。次年度は、より一層、家庭との連携を図り、具体的な取組を検討して実施していく必要がある。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった)